

研修受講者数集計表 (1/2)

平成9年10月31日現在

回	年 月 日	研修内容	実施者	受講対象者	場所	受講修了者数		
						男性	女性	合計
1	平成7年 6月 1日 ～ 2日	養豚基礎技術 視察実習	C/P	グァジャベ・プロジェクト普及員	農業研修センター (ENA) ENA豚舎	0	5	5
2	平成7年11月15日 ～ 17日	養豚基礎技術	C/P	養豚協会会員 (含: 現モデル農家1戸)	農業研修センター (ENA)	10	1	11
3	平成7年12月11日 ～ 13日	養豚基礎技術	C/P	当プロジェクト販売豚購入農家	農業研修センター (ENA)	10	1	11
4	平成7年12月18日 ～ 20日	研修旅行 * 屠場 * 養豚農家 * 飼料工場等	C/P	一般養豚農家 C/P 日本人専門家	テグシガルバ ジグァテベケ サン・ペドロ・スーラ	19	4	23
5	平成8年 6月10日 ～ 11日	養豚基礎技術	C/P	グァジャベ・プロジェクト受益者農家	プヌアーレ村集会所	2	14	16
6	平成8年 7月23日 30日 8月 6日	養豚基礎技術	C/P	当プロジェクト販売豚購入農家 (含: 現モデル農家1戸)	農業研修センター (ENA)	9	7	16
7	平成8年 9月26日 27日 10月 1日 2日	養豚基礎技術	C/P	グァジャベ・プロジェクト受益者農家	農業研修センター (ENA)	2	19	21
8	平成8年11月19日	養豚基礎技術	C/P	サラマ市民	サラマ市集会所	23	11	34
9	平成8年11月20日 ～ 22日	養豚基礎技術	C/P	グァジャベ・プロジェクト受益者農家	農業研修センター (ENA)	1	23	24
10	平成8年12月 4日 ～ 6日	養豚基礎技術	C/P	ブラフ受益者農家	エル・バタステ村集会所	2	24	26
小 計						78	109	187

研修受講者数集計表 (2/2)

平成9年10月31日現在

回	年 月 日	研修内容	実施者	受講対象者	場所	受講修了者数		
						男性	女性	合計
11	平成9年 2月25日 ～ 26日	養豚基礎技術 注射実習	C/P	グアジャベ・プロジェクト普及員等職員 及び提携NGO技師	農業研修センター (ENA) プヌアーレ村農家	11	6	17
12	平成9年 5月28日 ～ 30日	養豚基礎技術 去勢実演	C/P	グアジャベ・プロジェクト受益者農家	農業研修センター (ENA) プヌアーレ村農家	0	17	17
13	平成9年 8月 7日	去勢実演	C/P	プラフ受益者農家	エル・パタステ村農家	0	18	18
14	平成9年10月18日 ～ 24日	研修旅行 * 養豚農家 * 製薬会社 * 種豚センタ-等	C/P	モデル農家3戸 C/P8名 ガジャベ・プロジェクト普及員 DICTA職員	コスタ・リカ	17	5	22
小	計					28	46	74
合	計					106	155	261

研修テキスト構成（案）

テキスト内容	執筆担当 C/P
外表紙	
内表紙	
序文	ホセ・ルイス・サルカト
執筆者一覧表	
目次	
I. 養豚施設	エクトル・ウエルチエス
II. 品種と交雑	
2. 1. 品種	エドガルト・メルカト
2. 2. 交雑	エドガルト・メルカト
III. 豚の管理	
3. 1. 種雄豚の管理	ベニート・ベレイラ
3. 2. 育成段階種雌豚の管理	ベニート・ベレイラ
3. 3. 交配	ベニート・ベレイラ
3. 4. 妊娠豚の管理	ハフロ・サンチエス
3. 5. 分娩豚房での種雌豚の管理	リクサ・ハデ・イ・シヤ
3. 6. 子豚の管理	サルハト・ルト・レス
3. 7. 空胎豚の管理	ハフロ・サンチエス
3. 8. 肥育豚の管理	ルイス・モリーナ
3. 9. 種豚の選抜	エドガルト・メルカト
IV. 飼料給与	
4. 1. 飼料給与計画	ジヨニー・ハラオーナ
4. 2. 豚の飼料原料	レオネル・アルハラト
4. 3. 飼料配合	レオネル・アルハラト
V. 衛生	
5. 1. 豚の衛生計画	マルレン・カストロ
5. 2. 病気の予防法	マルレン・カストロ
5. 3. 豚の下痢	カルロス・ウジヨア
VI. 経営	
6. 1. 養豚経営の支出管理の例	アレクシス・フィンテス
6. 2. 豚肉商品化	アレクシス・フィンテス
VII. 養豚流れ図	ハフロ・サンチエス

農家巡回指導記録

期間：平成8年10月11日～平成9年10月31日

訪 問 村 名	延べ訪問農家数		
	男性	女性	合計
カタカマス市			
エル・パタステ*	0	19	19
ラ・ポデーガ*	0	10	10
エル・カリーチェ	11	0	11
サン・ペドロ・デ・カタカマス（モデル農家1戸）	33	4	37
エル・エンシーノ	4	0	4
カタカマス	4	0	4
小計	52	33	85
デュルセ・ノンブレ・デ・クルミ市			
ラス・マリーアス*	0	7	7
スピラーナ*	0	3	3
アグアキレ*	0	10	10
小計	0	20	20
サンタ・マリーア・デ・レアル市			
エル・ナランハル（モデル農家1戸）	9	1	10
グァジャビート	4	1	5
小計	13	2	15
サン・フランシスコ・デ・ラ・バス市			
サン・フランシスコ・デ・ラ・バス	3	1	4
小計	3	1	4
サン・フランシスコ・デ・ベセーラ市			
サン・フランシスコ・デ・ベセーラ	0	6	6
小計	0	6	6

訪 問 村 名	延べ訪問農家数		
	男性	女性	合計
フティカルバ市			
プヌアーレ	1	6	7
アリミス	0	3	3
テリーカ	2	0	2
トゥリン	6	0	6
コジョテベ	0	2	2
フティカルバ	1	1	2
タランケーラ	1	0	1
デリシア	1	0	1
フンキージョ	10	0	10
レバグアレ	1	0	1
ビハグアル	2	0	2
ガジョ・ブランコ	0	2	2
ポトレリージョ	1	1	2
小計	27	14	41
シルカ市			
シルカ	2	0	2
小計	2	0	2
コンコルディア市			
コンコルディア	1	0	1
小計	1	0	1
合計	98	76	174

*・・・P R A F（家族援助計画）の旧養豚プロジェクト対象村で、その受益者（豚と豚舎を寄贈された）は全て女性。

養豚農家の分類のめやす

	タイプ1	タイプ2	タイプ3
保有牛頭数	約100	約50	無し
豚舎の大きさ	大	中	小
種雌豚頭数	約20以上	約4以上	3以下
従来種の経験	有り	有り	有り
改良種の経験	有り	多少	少々
養豚継続への意欲	大いに有り	有り	有り
投資度	多	中	少
養豚収益の全収入 に対する割合	中	小	ほぼ無し
地域	フティカルハ カタカマス	エル・カリ・チ サンペド・ロテ・カタカマス サンフランシスコテ・ラハス フティカルハ カタカマス エル・ク・アキビート	クルミ地区 (リオフ・ランコ、スピ・ラナ アグ・アキレ、ラス・マリアス) サンフランシスコテ・ベ・セラ エル・ハ・タステ エル・ク・アキビート ブ・ヌアレ

農家組織化ミーティング参加者数集計表

平成9年10月31日現在

1. エル・パタステ地区グループ（旧PRAF受益者農家）

回	年月日	場所・テーマ	招待者数		参加者数		
			男性	女性	男性	女性	合計
1	平成9年 9月8日	エル・パタステ村幼稚園 「各農家の抱える 問題点・関心の確認」	0	22	0	14	14
2	平成9年 9月26日	エル・パタステ村幼稚園 「レプトスピラ」 「収支記録について：1」	0	22	0	21	21
3	平成9年 10月6日	エル・パタステ村幼稚園 「収支記録について：2」	0	22	0	17	17
合計					0	52	52

2. サン・ペドロ・デ・カタカマス地区グループ（含：モデル農家1戸）

回	年月日	場所・テーマ	招待者数		参加者数		
			男性	女性	男性	女性	合計
1	平成9年 9月11日	養豚開発プロジェクト会議室 「各農家の抱える 問題点・関心の確認」	4	1	3	0	3
2	平成9年 10月1日	養豚開発プロジェクト会議室 「分娩豚房での管理」 →参加者不足のため流会	4	1	1	0	1
合計					4	0	4

3. カタカマス地区グループ（含：モデル農家1戸）

回	年月日	場所・テーマ	招待者数		参加者数		
			男性	女性	男性	女性	合計
1	平成9年 9月12日	養豚開発プロジェクト会議室 「各農家の抱える 問題点・関心の確認」	4	0	3	0	3
2	平成9年 10月14日	養豚開発プロジェクト会議室 「養豚業経営について」 →参加者不足のため流会	4	0	1	0	1
合計					4	0	4

4. フティカルバ地区グループ（含：モデル農家1戸）

回	年月日	場所・テーマ	招待者数		参加者数		
			男性	女性	男性	女性	合計
1	平成9年 9月16日	グアジャベ・プロジェクト 社交クラブ 「各農家の抱える 問題点・関心の確認」 *参加者不足のため次回に延期	1	1	3	1	4
2	平成9年 9月29日	グアジャベ・プロジェクト 社交クラブ 「各農家の抱える 問題点・関心の確認」	1	1	6	1	7
3	平成9年 10月7日	DICTA・フティカルバ 会議室 「M. M. A」 「配合飼料共同購入の検討」	1	1	2	1	3
合計					1	3	4

平成9年10月31日現在

モデル農家での試験の実施について

1. マルヴィン・モリーナ氏

カタカマス市 サン・ペドロ・デ・カタカマス

「肥育豚飼養形態別成長比較試験」

肥育豚を舎飼い、放飼の2形態で飼養し、体重増加と寄生虫の有無を比較する。

試験の目的は、舎飼いの成長効率の良さを農家に認識してもらうことにあるので、試験結果のその他の農家への普及活動を考慮して、試験用施設の建設はできるだけ価格を抑えたものとした。

現在、試験用施設を建設中で、完工し次第、試験開始予定である。

2. エクトール・セラーヤ氏

サンタ・マリーア・デ・レアル市 エル・ナランハル

豚舎の汚水処理に絡めて、豚糞堆肥試験を計画中。

3. ボルフィリオ・フィゲロア氏

フティカルバ市 フンキージョ

人工授精の技術移転を含め、村落レベルでの人工授精の実施調査を計画中。

1998年 養豚開発プロジェクト研修計画

対象期間：平成10年1月1日～5月14日

研 修 内 容		実 施 時 期		合 計	
		1月1日～3月31日	4月1日～5月14日		
研修会	豚の飼養管理	1回(20人)	—	1回(20人)	2回(40人)
	経営、枝肉審査	—	1回(20人)	1回(20人)	
農家など現地視察		1回(20人)	—	1回(20人)	
講習会		5回	5回	10回	
実演		3回	2回	5回	

上記表のように、平成10年のプロジェクト終了時までの研修計画は組まれている。

現在、養豚農家の組織化を4地域で推進中で、各組織とのミーティングの一環として1時間程度のテーマ別講習会を毎回、組織のニーズに合わせて開催していること、グアジャペ・プロジェクトからもテーマ別講習会の希望が合ったことから、講習会の全体に占める比重は高くなると思われる。

また、モデル農家3戸のいずれとも飼養管理技術に関する試験、調査を実施、計画中でもあり、この試験、調査の実施に合わせて、現地への視察の開催頻度も上昇すると思われる。